わかすぎ
若杉町内会

町内会加入：82 世帯

若杉町のふれあい活動について

若杉町内会　会長　濱口 典生

若杉町の役員は、会長・副会長・会計・書記の４名です。それと組長・副組長合わせて22 名で運営しています。

年６回の運営委員会、毎月１回の役員会を行っています。

町のふれあい活動としまして、毎月第２・第４水曜日の午後からひまわり会として主にカレンダー作りや、編み物等を製作しています。

毎週月曜日の午後からは、カラオケ会を行っています。

それから、一昨年から町の小学生までを対象としたクリスマス会を始めました。クリスマスケーキを食べたり、ビンゴをしたりと色々なゲームをして楽しんでいます。子供達の笑い声が公民館にひびいて、楽しい時間を過ごしています。

今年度から年４回、“町民の集い”という日を設定し、日頃の町内会活動への感謝の気持ちを込めて、小さな子供達からお年寄りまで老若男女を問わず町民の憩いの場を設けさせていただきました。

お菓子やコーヒー、紅茶、ジュースをいただきながらゲームをするなど、楽しいひとときを過ごしています。

町内一斉草刈りや、大溝掃除もほとんどの方にご協力をいただいております。

それから、毎年鳥羽市が行っている防災訓練には、若杉町も毎年参加しています。この訓練にも多くの町民の方が参加してくれます。防災への意識を持って居られる方がたくさん見えます。これは大事だと思います。

それから若杉町には、ノームル美術館が有ります。油絵等たくさんの作品が飾って有りますので見に来て下さい。

河内町内会（こうち）

町内会加入：102 世帯

河内町内会の取り組み

河内町内会　会長　上村 昌芳

河内町は加茂川の支流、河内川流域一帯に位置し、南西は山伏峠を越えて伊勢に通じており、丸山・高坊山などに囲まれた山地です。

集落は河内川に沿って、河内・奥河内・杉ケ瀬・熊倉・山田に分かれています。

昭和 29 年から現在の鳥羽市の町名となり、昭和 31 年には河内ダムが完成しました。河内川の水をせき止め、灌漑と防災に利用されています。

また、同年には庫蔵寺本堂・鎮守堂が国の重要文化財に指定されております。

そんな河内町の町内会は同じ地域に住む人々がお互いの協力のもと、住民同士のふれあいを深め、話し合い、助け合うという、原則原理に基づき活動を行っています。

河内神社『宵宮』のポスター

以下、河内町内会の体制と活動内容です。

役員	（会長）上村 昌芳 （副会長）２名 ※内務担当：１名、会計担当：１名 （協議員）４名 合計７名
任期	２年
組織	10 組
加入状況	101 世帯
活動内容	協議会（１回/月）※必要に応じて随時開催 町内一斉清掃の実施 河内神社『宵宮』の開催 敬老会の開催（商品券・記念品等の配布）
周知方法	回覧板　１回/月※その他必要に応じて回覧あり 掲示板 10 箇所、町内放送 行事放送、緊急放送
防災組織	自主防災会

（河内町内会の体制と活動内容 ※Ｒ７．９月現在）

いわくら
岩倉町内会

町内会加入：127 世帯

岩倉町の取り組みについて

岩倉町内会　会長　河村 悟

岩倉町内会を紹介します。

役員構成は、会長・副会長（１名）・会計（１名）・協議委員（６名）で２年間の任期で運営されています。町内を 10 組に区分け組長を設けています。

令和７年９月末現在の加入世帯数は 127 世帯と特別会員７（個人４・団体３）となります。

町内会協力団体として加茂分団第２部消防団・里山保全の会・水利水防組合・九鬼岩倉神社氏子総代・極楽寺檀家総代があり協力体制となっています。

■年間の主な行事■

４月　　要望箇所の現地確認及び取りまとめ
５月　　広報いわくら発行、市要望書提出
６月　　町内設備等調査点検
７月　　下排水清掃
９月　　敬老の日記念事業、自主防災研修
10 月　　広報いわくら発行
11 月　　市防災訓練へ参加
12 月　　防災名簿調査、下排水清掃
１月　　町内施設等調査点検
３月　　広報いわくら発行

※４月　組長・団体長会議・通常総会
※３月　決算総会

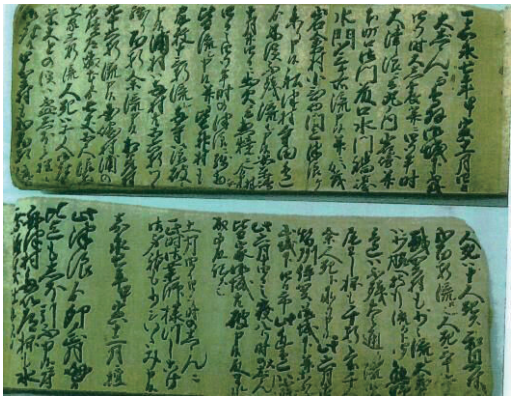
松尾町内会（まつお）

町内会加入：190 世帯

松尾の古文書

松尾町内会　会長　竹内 和雄

松尾町に現存する古文書「大福帳」「万控（よろずひかえ）」の二冊が有ります。



▶ 大福帳

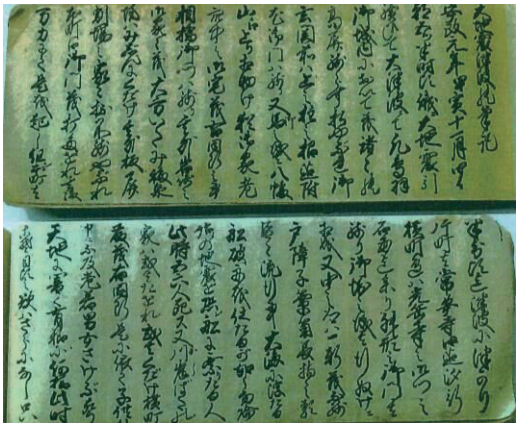
（鳥羽市松尾公民館蔵、鳥羽市指定文化財）

鳥羽市松尾町の寄老会に伝わる記録。松尾町は鳥羽港より６km 程南の加茂川沿いに位置する。地震の後、大津波が来襲した際に志摩鳥羽城の門や水門が３か所流失したことや、近隣の村々が津波の被害にあったことが記されている。松尾村（鳥羽市）周辺だけでなく海岸沿いの国崎（鳥羽市）・和具・越賀村（共に志摩市）等の津波の被害も記されている。

▶ 万控

（鳥羽市松尾公民館蔵、鳥羽市指定文化財）

地震と津波による鳥羽城下の被害や周辺の村々の惨状を記したもの。城内の人足のため松尾村を含む加茂５か村が手伝いに入り、縄や竹、食料として濡米を蒸したものをもらったという。松尾村の村役人等が「末世に至り記録共ならん為」と後世へ伝えるために安政４年（1857）に記したとある。



この二冊を愛知県安城市の歴史博物館に令和６年 12 月より令和７年２月まで貸出しました。

歴史博物館は特別展「地震と災難 宝永地震から三河地震まで」で展示しました。

古文書には明治五年の松尾町の戸籍が記載されています。

戸籍 95 戸　男 259 名　女 268 名　合計　527 名
牝牛　29 頭　牡牛 11 頭　合計 40 頭
荷車　５輌

「鳥羽藩政下の農村」　松本茂一著より引用

しらき
白木町内会

町内会加入：49 世帯

若い力で町内を守る！！今年のテーマ「健康と防災」

白木町内会　会長　西川 丈司

白木町内会は市内の山間部に位置し、会員世帯 49 軒と市内では小さい町内会ですが、近年は第二伊勢道路により交通アクセスも良く住みよい町となっています。

1　防災・防犯活動

昨年度に「自主防災会」の組織改革を行い、様々な職業の 20 名を選任し、まずは町内を知ろうというフィールドワークにて危険個所や空家・井戸調査、世帯台帳の整備や備蓄品の確保。また、メンバーによる被災地支援体験談などを共有し、特に土砂災害に対応すべく体制を整えています。

また、令和５年度に学生を含む若手有志 15 名で結成した白木町困りごと支援隊。略して「白援隊」は、高齢者、独居老人世帯などの手助けを目的に年間十数件の活動を行っています。

2　親睦・交流活動

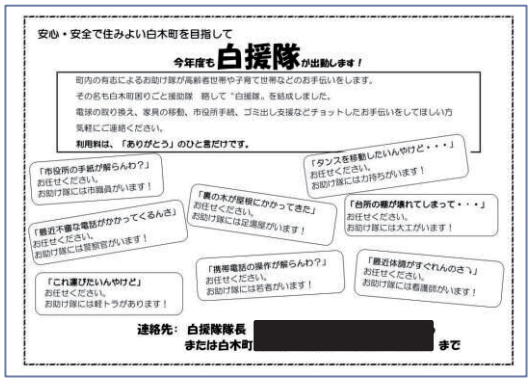
お盆に実施している「夏祭り」は、毎年趣向を凝らした仮装踊りのほか、たくさんの夜店を展開し帰省者も参加した 200 人規模のイベントとなっています。

また、秋頃に開催する「健康イベント」は町民運動会や健康測定など健康をテーマとした交流を行っています。その他、「里山研修旅行」なども恒例行事となっています。

3　環境・景観保護活動

町内の環境や景観を守るため、年２回の町内清掃作業のほか白木里山さくらを守る会、白木生産森林組合による里山の維持活動により町内美化に努めています。

このように年間を通じた事業展開により、今後も町民全体が責任を持ちみんなの町内会という意識で町内活動を維持していきたいと考えています。


安心・安全で住みよい白木町を目指して

今年度も白援隊が出動します！

町内の有志によるお助け隊が高齢者世帯や子育て世帯などのお手伝いをします。
その名も白木町困りごと援助隊　略して "白援隊。を結成しました。
電球の取り換え、家具の移動、市役所手続、ゴミ出し支援などチョットしたお手伝いをしてほしい方
気軽にご連絡ください。
利用料は、「ありがとう」のひと言だけです。

「市役所の手続が解らんわ？」お任せください。お助け隊には市職員がいます！
「タンスを移動したいんやけど・・・」お任せください。お助け隊には力持ちがいます！
「最近不審な電話がかかってくるんさ」お任せください。お助け隊には警察官がいます！
「裏の木が屋根にかかってきた」お任せください。お助け隊には足場屋がいます！
「台所の蛇口が壊れてしまって・・・」お任せください。お助け隊には大工がいます！
「これ運びたいんやけど」お任せください。お助け隊には軽トラがあります！
「携帯電話の操作が解らんわ？」お任せください。お助け隊には若者がいます！
「最近体調がすぐれんのさ」お任せください。お助け隊には看護師がいます！

連絡先：白援隊隊長 [redacted] まで
または白木町

白援隊チラシ

夏祭りの様子

いまうら
今浦町内会

町内会加入：70 世帯

時の流れ

今浦町内会　会長　岩井 吉太郎

50 年前を振り返ると、パールロード開通と共に麻生浦大橋が開通し、本浦・石鏡等鳥羽方面へのアクセスが良くなり、たいへん便利になりました。

それから鏡浦小・中学校への通学も今浦・本浦間のスクール渡し船での送り迎えも解放され、子供達他利用されていた人達も自由に橋を渡れる様になりました。

当時の小・中学校の生徒は多く、運動会も小・中合同大運動会となり、今浦・本浦・石鏡の３地区で一体となり盛り上がり、たいへんにぎやかでしたが時の流れにて鏡浦中学校が平成 26 年３月に閉校となり寂しくなり、令和３年３月には鏡浦小学校も閉校になってしまいました。

今浦の町内での変化も年と共に深刻になって来ました。

青年団が中心となりやってきた盆踊り、町内会行事も青年団がなくなり不可能となってしまいました。

少子高齢化によりいろいろな問題が発生しています。

予想される南海トラフ地震の対応は、現在全体でモチベーションが低くなっている中でどのようにすれば災害から命を守り生活を確保できるか難しい課題です。

今浦地区では避難所を高台に設置するのが困難なため、１つ対策として、災害緊急時に防災ヘリが着陸できないか検討しました。候補場所に対して、鳥羽市の防災担当に協力してもらい、確認した結果 OK が出たので現在申請と共に避難路の整備も進行中。

実現できれば、高齢者を避難誘導でき、又支援物資等も得る事ができるのではないかと問題が解消しつつある状況です。

もとうら
本浦町内会

町内会加入：128 世帯

「本浦町今昔」

本浦町内会　会長　杉原 久春

本浦は、「浦村牡蠣」で有名な牡蠣の生産地で、冬には焼き牡蠣を求めて、たくさんの客で賑わいます。また、本浦は、平安の昔から都とつながりがあり、「片え梨」の和歌が詠まれているように、都に梨を献上した記録があります。また、戦国時代には、浦衆として九鬼嘉隆に仕え朝鮮出兵にも参加しています。「浦のボラだて」が有名で、水軍の訓練としボラだてを実施したとも伝えられています。

このように、歴史と伝統を受け継ぎいろいろな行事を行っています。

まず、正月の行事として「八幡祭典」（弓ひき）として、１月３日に３人の若者が弓を引きます。的に当てて無病息災と大漁満足を祈願します。

７月は、天王祭です。御船を仕立てて笛、鼓、太鼓で浦神社までお参りに行きます。

町民は、提灯を持って対岸からお参りをします。御船が港に着くころに奉納花火をあげてお祝いします。８月は、盆踊りを 13 日、14 日、15 日と三日間踊ります。櫓を組んで、三味線、太鼓、音頭で村中の人が、先祖さんの足が軽くなるようにと踊ります。

盆の終わりは、おいやれです。８月 31 日にわら船を朝から作り、夕方に、ホラ貝、鐘、太鼓を鳴らし、辻々を回ってお供えをわら船に入れていただき、それを沖に流しに行き先祖の霊をお送りし、家内安全、商売繁盛をお祈りします。

このように、昔ながらの行事を実施しながら、みんなで楽しく明るく過ごせる町づくりを目標に活動しています。

いじか
石鏡町内会

町内会加入：160 世帯

石鏡町内会　会長　宮本 成章

【年間の主な行事】

７月　花火　　８月　盆踊り　　９月　敬老会　　11 月　神社（七五三、大祭）
１月　神事

国崎（くざき）町内会

町内会加入：87 世帯

悠久の歴史を紡いで

国崎町内会　会長　津曲 博之

鳥羽市自治会連合会が設立 50 周年を迎えられたことに対しまして、心よりお祝い申し上げます。

半世紀という長きに亘り、地域の安全・安心の確保、環境美化、防災活動、さらには世代をつなぐ交流の場づくりなど、多岐にわたる取り組みを続けてこられた歴史は、地域住民の力を結集した成果であるといえます。

今後は、少子・高齢化の進展や人口減少など地域を取り巻く課題は決して少なくありません。

しかし、50 年の歩みが示すように、互いに支え合い、知恵と力を出し合うことによって、必ず新たな未来を切り拓くことができるものと思慮しております。

そして、本記念誌がこれまでの活動を振り返るとともに、次の世代への道標となることを心より願っております

さて、寄稿にあたりまして、当町における活動のうち、唯一無二の特色ある取り組みについてご紹介いたします。

当町では、今から約 2,000 年以上前、第 11 代「垂仁天皇」の第４皇女である「倭姫命」（やまとひめのみこと）が伊勢への巡行で国崎を訪れた際、地元の海女「おべん」から鰒（あわび）を献上され、その美味しさに感動した倭姫命が、「天照大御神へも奉納せよ」と命じたのが始まりと伝えられています。

おべんは、この鰒が「生のままでは腐る」とし、薄く切って乾燥させて保存性を高める工夫を提案し、これが今日まで続く伝統技術「熨斗鰒（のしあわび）」の基になったと言われています。

こうして調製された熨斗鰒は、神宮（通称：伊勢神宮）の三節祭（６月・12 月の月次祭、10 月の神嘗祭）など、重要な神事の神饌（しんせん＝神に供える食物）として現在も奉納しています。

この伝統的調製技法は、県指定の無形民俗文化財にも登録されています。

当町では、地元民で組織している「国崎熨斗あわび文化保存会」や「神宮御料鰒調製所」を中心に伝統技術を継承し、年数回にわたって奉納用の鰒を調製する事業を継続してきています。

神宮御料鰒調製所の全景

熨斗鰒調製の最初の行程として
鰒剥き作業の様子

神宮へ納める熨斗鰒
大身取鰒・小身取鰒・玉貫鰒

おうさつ
相差町内会

町内会加入：303 世帯

住みよい街づくりをめざして

相差町内会　会長　世古　務

近年、全国各地で地震或いは、台風等による甚大な自然災害が頻発しているところですが、「わが街相差」においても住みよい街づくりを目指すうえで、多岐にわたる取組課題がある中、町民の安心安全な生活を守るため自主防災会組織の強化を最重要課題として取り組んでいる。

先ずは、災害対策の基本である自助、共助、公助の３つの考え方から町内会としては自主防災会(共助)組織の拡充を図っている。

防災会を１．消火班、２．救出救護班、３．情報班、４．給食給水班、５．避難誘導班の５班に分けて役割分担の明確化を徹底、さらに町内会の連絡先を明記した緊急連絡網を作成し、毎年全戸配布している。

有事にはしっかりと機能していくことが大事なことであると考える。

孤立集落対策として、能登半島地震をきっかけに「水は命」といわれるように、人が生きるために不可欠であり、わが街には古くから井戸があることに着目して、行政に協力を仰ぎながら「協力井戸水制度」の導入を図っている。

また、こどもたちの防災意識高揚の観点から、海抜表示シールのメンテナンスを小学生の子供たちと帯同して行っている。

今後も継続して定期的な避難訓練の実施、防災用品の更なる充実を図りたいと思っている。

自治会連合会においては、生い立ち、地域事情、文化の違いのある町内会(自治会)の集合体であるものの、前述のとおりの防災対策や少子高齢化に伴う人口減少に加え、何をするにも担い手不足等の共通した課題、問題点もありますので、この 50 年の歴史を踏まえた上で地区を超えた一層の各町内会(自治会)間の連携、鳥羽市との協働した取組みに期待しているところである。

総合防災訓練の様子

海抜表示シール
メンテナンス作業の様子

あだこ
畔蛸自治会

自治会加入：58 世帯

皆さんに感謝

畔蛸自治会　会長　植村 宗司

鳥羽市自治会連合会 50 周年おめでとうございます。

私の住む町、畔蛸町の紹介をさせていただきます。自治会は 20 年前、同一の運営から町内会と漁協が別々になり発足しました。平成 22 年には待望の自治会館（コミュニティセンター）が新築され、町の皆さんに喜ばれました。

地名の由来は不詳ですが…月夜に畔にいるカニを食べようと蛸が上がって来るほど蛸がたくさんいて 畔蛸となったという説があります。名物に蛸めしがあります。

世帯数 58 戸、人口 185 人の小さな自治会です。小さいながら町内の祭典行事など自治会の役員と町内の皆様の協力のもと頑張っています。

畔蛸町といえば、北条時頼公の縁の町として時頼祭をコロナ前までは色々と工夫しながら開催していましたが、今は縮小しています。やはり祭りがあると、町全体が盛り上がります。どこの町も共通の課題だと思いますが、次の世代へのバトンタッチが難しくなっています。イベント開催がやりにくくなっている中でも、今年の５月 25 日に町のある方の協力の元、知り合いの南伊勢町の村田スタジオバンドさんによるふれあいミニコンサートが開催されました。畔蛸町の名所の入った、ヨイトコ音頭、青春時代を思いおこさせてくれた昭和歌謡などの生バンド演奏が心に残りました。約 60 名の参加があり、狭い場所でしたが人々が集い心ふれあう素晴らしい時間を共有することができ、感激しました。

また、いきいきサロンでは民生委員をはじめスタッフ一同和気あいあいとゲーム等をして色々と趣向を変えて楽しんでいます。

自治会役員、各委員、各種団体の会長、皆様方の協力に感謝しながら町を見守っていきたいと思います。

畔 蛸 神 明 神 社

せんが
千賀町内会

町内会加入：23 世帯

千賀町はこんなところ

千賀町内会　会長　濱中 保美

千賀町は、的矢湾の奥に位置し、人口 50 人程度の小さな町です。市内の方でも訪れた人は、ごくわずかであると思います。

千賀には昔、千賀志摩の守とその一族が、千賀浦に水軍を率いて移り住み、何代か続いたのち、九鬼嘉隆との戦に敗れて、三河の師崎に逃げ延びたという歴史があります。今も千賀家の墓所には五輪塔が有り、たまに三河方面から墓参りに来ることがあります。

鳥羽市自治会連合会が発足した年は、千賀・堅子両地区にまたがって、ゴルフ場が開業しました。地元をはじめ、近隣の町からも多くの人が働きに来ていましたが、今は太陽光発電所に変わっています。

他の施設では、鳥羽マリーナがあり、平成に入ると千賀漁協が釣り筏や、釣り堀の観光施設を開業し、多くの釣り客や観光客で賑わっていました。

この頃の人口は約 100 人位で、町内行事を行う人手もまだ有りました。しかし、今では高齢化が進み、人口の半分が 65 歳以上です。このような状況では町内行事も簡略化せざるを得ず、例えば、毎年８月 20 日に行っている精霊送りでは、鐘や太鼓・ホラ貝を先頭に藁の馬を担いで西方の山で松明を燃やし線香をあげていました。

しかし、藁の馬を作る人手が無くなったため、三年前から藁の馬はなくして精霊送りを行っています。

その他の活動としては、数年前から千賀をたのしむ会（ふれあい・いきいきサロン事業）を、月に１回程度公民館で開いています。毎回、７～８人参加しています。

千賀には十数年来、子どもがいませんでしたが、今は小学生から二歳児まで６人の子どもが暮らしています。遊び場がなかったため、社会福祉協議会の遊具助成事業で、旭分校跡地にブランコを設置して頂きました。

小さな町ですが、子どもから高齢者まで楽しく暮らせる町作りに取り組みたいと思います。

藁 の 馬

松　明

かたこ
堅子町内会

町内会加入：18 世帯

竈子から堅子へ

堅子町内会　会長　中山　理

わが町堅子町は鳥羽市と志摩市との境界地にあり、市内からは忘れられた地区であります。

しかしそれなりに歴史は古く、写真にあるように古老が書き残してくれた冊子の竈子がなまり堅子町になったと聞きました。

志摩郡長岡村字堅子としてそれなりの歴史がありました。

昭和四十年ぐらい前までは人口もあり、隣の千賀町との間に旭分校があり三年生まで習い、四年生から徒歩と渡し船に乗り弘道小学校と長岡中学校に通いました。

だが、何しろこの地区は昔から陸上の交通の面ではかなり不便な土地柄であり、現在もこの地区にいたる路線バスや定期船などの交通機関は存在しません。

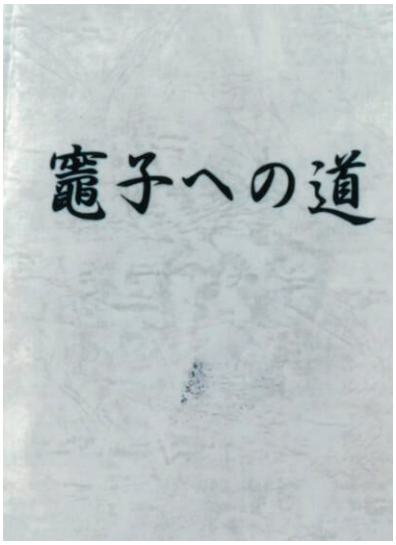
昭和四十五年に相差町からのびる道路が整備されるまでは、村へ通じる道は細い山道があるばかりで、隣の地区に行くにも浜から船を出すか徒歩での状況でありました。

産業においては谷間の部落のために耕地が狭く地先の漁業圏や磯場にも乏しく、そのために村の男性は江戸時代から海運業に従事する者が多く、ながらく船主と船員の村として成りたってきました。

戦時中も多くの船が徴用船として従事したため多くの船員が亡くなりました。

そのため村では県下で最も早く婦人消防団が結成されたと聞いています。昭和五十六年までつづきました。

今は市内唯一のゴルフ場もなくなり過疎化・高齢化に拍車がかかり十八世帯になり、空き家対策が喫緊の課題であります。過疎化の対応に追いついていないのが現状であります。



書籍「竈子への道」

鳥羽市立弘道小学校旭分校（昭和 31 年撮影）
現在は跡地に石碑が残っている

答志（とうし）町内会

町内会加入：290 世帯

最近 10 年の活動を紹介します

答志町内会　会長　西川 豊幸

近未来、公助に頼れる時代ではない。
自助・共助の力をつけていくことをコンセプトに、

① 広報活動　②ごみ処理　③安心・安全
④福利厚生　⑤答志島架橋建設促進運動
⑥救急船の運航開始要求

等の分野で充実した活動を続けており、
町民の皆さんからも評価していただいている。

① 広報活動
町内会広報の発行（月１回）、
ＳＮＳの活用（ＬＩＮＥ・ＢＡＮＤ）

② ゴミ処理
リサイクルセンターのフル活用
セルフによるリサイクルゴミ出しの推進。
および、奈佐の浜焼却場の再稼働運動の推進。

③ 安心・安全
年間８回ほどの草刈り・枝払い、道路の補修、
避難訓練の実施。避難場所・避難路の整備。

④ 福利厚生
神祭・盆踊りへの協力、子ども神輿・くじ引きなどを実施。
伝統を守りつつも、新しいルール作りを推進。
お木曳と遷宮、十王堂再建などにも着手。
新しい町内会事務所の建築。

⑤ 答志島架橋建設促進運動
答志島三町内会・漁協による協議会の活動。

⑥ 救急船の運航開始要求
数えきれないほどの市・国・県への要望活動を展開している。

町内会役員への成り手も少ない中、「できる範囲でよいから」と仲良くそれでいて精いっぱいの活動を行っている。

好きな時に出せるリサイクルゴミ

十王堂の再建

敬老祝賀会

子ども神輿風景

神祭出演(創作 実録 利祭倶留城)

答志和具町内会（とうしわぐ）

町内会加入：135 世帯

思いやり

答志和具町内会　会長　山本 春久

私も町内会に携わって早７年が経ちました。来年で私もそろそろ引退かなと思っています。引退するまで、和具の為にもう少し頑張ります。

そして、和具も毎年、盆行事や神祭他色々な祭りがあります。和具町内も若者が居ないので段々祭りがやり難く成っています。しかし和具も有難い事に、ここ数年前から横浜大学の学生等が手伝いに来てくれます。精霊船の竹を切ったり、飾り付け、盆踊り、演台の組み立てをしたりと、本当に暑い中嫌な顔をせず、一生懸命やってくれます。町民も総出で行っています。本当に有難く思っています。

また町民総会や敬老の日祝賀会で毎年言っている事があります。それは、最近高齢者が何処でも多くなってきて、色々な困りごとが起きています。例えば、ゴミ出しや重い荷物を運ぶのが辛そうになっています。そこで、それを手伝ったり、困っていたら直ぐに声かけをしたりして、ちょっとした事でもお互いに助け合い、嫌な事言わず、人に嫌われず思いやりの精神を持って生活して行くのが良いかなと思います。こういう心を持っていれば、ロシアとウクライナの戦争も終わり、世界中の紛争も無くなり、お互いの憎しみ合いも無くなるかなと思います。

そしてもう一つ、命に関わる大事な事があります。答志島には、常駐の医者がいません、橋が架かるまで、緊急船を一刻も早く配備して欲しいと思っています。

医者がいないので、何人かの人も亡くなっています。毎年鳥羽市に訴えていますが未だに実現していません、私達島民の願いです。助けて下さい。

すがしま
菅島町内会

町内会加入：177 世帯

健康長寿の島を目指して

菅島町内会　会長　小寺 兵吾

菅島町は自然の景観と伊勢海老や鮑・海藻類など海の資源に恵まれ一本釣り漁、黒のりの養殖も盛んに行われています。

離島４島の中で答志島に次いで二番目に大きい島であり、周囲 12 キロの島の中では 438 人（Ｒ７．７月時点）が暮らしています。

全国的に少子高齢化が進んでいますが当町でも 65 歳以上の人が 216 人と人口の半数近くとなっています。

その中でもひとり暮らしの人が 40 人余りとなり、80 歳以上の人の割合も高くなっています。その見守りには親族・知人・福祉介護サービスなどがありますが個人差もあり生活状況などの把握も難しくなっています。

島内には菅島老人会（有志）で健康増進、趣味を通しての交流でグランドゴルフやカラオケを月２回程度開催しており、お互いの健康状況の把握をしています。

昨今、テレビ・新聞などで話題となっている孤独死・ひきこもり・寝たきりなどについて、町内会としても市健康福祉課・市社会福祉協議会などと連携し、気軽に集えるサロンやフレイル予防のイベントなどを開催して高齢者の健康寿命を延ばしお互いに助け合い自然豊かな環境の中で暮らせるように町内会事業のひとつとして取り組みたいと考えています。

伊勢えび

菅島の景色

神島（かみしま）町内会

町内会加入：114 世帯

神島町内会　会長　藤原 隆仁

【年間の主な行事】
５月　歎佛法要、敬老会　　７月　天王祭、港内清掃
８月　サマーフェスタ、八方伝、大漁祈願祭　　９月　島民運動会

さくらが丘（おか）自治会

自治会加入：110 世帯

さくらが丘自治会　会長　濱口 利實

【年間の主な行事】
４月　花見　　５月　大掃除　　12 月　やきものの会

ハイタウン鳥羽（とば）自治会

自治会加入：50 世帯

ハイタウン鳥羽自治会　会長　吉崎 和也

【年間の主な行事】
４月　総会　　６月　環境整備作業　　８月　環境整備作業、親睦事業（夏祭り）
10 月　環境整備作業

安久志（あくし）自治会

自治会加入：282 世帯

人のつながりづくり

安久志自治会　会長　世古 藤人

安久志自治会は、安楽島町内会より 1991 年３月に分離独立した比較的新しい自治会です。会員は地域に居住する住民及び事業所の方々で、現在は 282 会員となっています。

地域的には、ほぼ鳥羽の中央位置にあり、隣接地区には商業施設（ハロープラザ）や公共施設（中央公園・市民の森・ひだまり等）があり、生活居住環境の良いところです。

また、地区の高台は鳥羽市でも有数の景勝地であり、数多くの観光宿泊施設が建ち並んでいます。

この地区には神社や仏閣はなく、古くからの伝統的な行事もありません。新しい住民・会員が多く、人と人との付き合いが浅いことや繋がりが希薄なことから、孤立してしまうケースもあります。また、高齢者の方は社会との関わりが次第に少なくなり、孤独化していくことも増えてくるでしょう。誰かと何処かでつながりを持っていくことが大切です。

自治会では会員間の交流と親睦を深める活動として、毎年手作りの「夏祭り」と「秋の一日遠足」を実施しています。今年の夏祭りも、こども達から高齢者の方まで多くの参加を得て賑やかに行われました。そして、秋には会員レクリエーションとして日帰りバス遠足を実施し、各家族間の交流を図っています。

これからも、地域社会のコミュニティを重視しながら、人のつながりや親睦が図れるような機会づくりと活動を行っていきます。

夏祭りの様子

安久志地図

みどりが丘（おか）町内会

町内会加入：70 世帯

みどりが丘町内会を紹介します

みどりが丘町内会　会長　山本 清

みどりが丘町内会 設立から 34 年となる加入世帯 70 戸の町内会であります。歴史的には若いと思いますが時の流れはひしひしと感じています。

設立時は、私宅で会議を行っていたようですが、今は集会所ができ活用できるようになりました。また、他の町内も同じだと思いますが、子供たちが少なくなってきて、高齢化は進んでいます。

町内会役員は、ほとんどが仕事を持っているため会合は定期的に行っておらず事案あるごとに会長が招集というかたちで行っています。

町内会では、総会、役員選挙、町内清掃、夏まつり、避難訓練等がおおきな事がらであり特に夏まつりは、親睦を兼ねた行事となっており、夏休みになってから行うので町内を離れ近くにいる人たちは子供を連れ参加することから一時のにぎわいになっております。また、このような行事を重ね町内会員の意思疎通を図り町内会運営を進めています。

桃取（ももとり）町内会

町内会加入：196 世帯

桃取町内会　会長　齋藤 直樹

【年間の主な行事】

4 月　懺法（せんぽ）供養法要（五年毎）
5 月　奉仕作業（町内会役員）、湯立祭
6 月　答志島クリーン作戦、夏越しの大祓い（茅の輪くぐり）
7 月　避難路整備、天王祭、豊漁祭（漁協主催）
8 月　盆踊り、大施餓鬼供養法要、浜施餓鬼供養法要、大念仏供養法要、地蔵盆、おいやれ
9 月　敬老会、旧桃取小学校グランド整備（町民）
11 月　勤労感謝祭、奉仕作業（町内会役員）
12 月　大祓い祭
1 月　1 日 歳旦祭、3 日 御棚祭、18 日 大般若会
2 月　御神祭
3 月　町内会総会

鳥羽美台町内会（とばびだい）

町内会加入：71 世帯

鳥羽美台町内会の活動と願い

鳥羽美台町内会　会長　山本 英嗣

1997 年３月に岩崎町内会から独立
2009 年　鳥羽美台集会所登記完了

４月	総会
５月・10 月	草刈り
８月	精霊送り・夏祭り
９月	敬老会食事・ビンゴ大会
11 月	避難訓練
１月	新役員選出会議

敬 老 会

2023 年９月から南側山頂に違法に設置された太陽光パネル問題に住人一丸となり対峙している。数年後、この記念誌を見た時に解決している事を願う。

南 山

夏 祭 り

避 難 訓 練

消 火 訓 練

炊 き 出 し 訓 練

鳥羽美台入り口の桜